

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090800048		
法人名	有限会社 ごんどう		
事業所名	グループホーム菜の花 1F		
所在地	福岡市東区和白東4丁目6番26号		
自己評価作成日	平成30年8月16日	評価結果確定日	平成30年11月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=4090800048-00&PrefCd=40&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	福岡市博多区博多駅東2-6-1九勸筑紫通ビル9階		
訪問調査日	平成30年10月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事への参加、子供会や近隣の住民も参加しての年末の「餅つき」に加えて、前年から力を入れている「菜の花夏祭り」にも、子供やご家族を招いて開催しています。地域の一人として、地域住民の方との触れ合いを大切にしながら運営を行っています。 ・職員の資質の向上を目指し、外部の研修会や内部研修の、年間計画を立て実施しています。 ・入居者様の人権を守る取り組みを、今後も継続していきます。 ・今年度は、委員会活動の活性化を目標に挙げ、職員全体で運営をサポートしていきます。 ・運営推進会議は、町内会長・民生委員の方をはじめ、御家族や必要時は消防分団、交番からの参加も頂き、円滑に運営出来ています。近隣のグループホームとの交流も進んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>経営者がグループホームを運営する前から地域の住民であり、地域とのつながりが強い施設である。施設の近隣に住民が飲み物の自販機を置いた住民もくつろげるスペースがある。また、敷地の花壇・畑の世話を地域の方が自発的に行い利用者・職員・地域との関係がよい、地域密着型サービスの理想とする施設である。</p> <p>比較的新人の職員が多い施設であるが、管理者と職員の関係も良好であり、聞き取りをおこなった職員からは自分の大切な人にもおすすめできる施設とのことである。</p> <p>自己評価も客観的に自施設を評価し業務の改善にも前向きな施設である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、「住み慣れた地域で皆とともに自分らしく、のんびりゆったり楽しく暮らします」の理念を朝礼に参加している職員全員で唱和することで、その意義を再確認し、日々の実践に取り組んでいる。	理念は地域密着型サービスの意義を踏まえており、利用者と地域のつながりを意識した支援をおこなっている。聞き取りをおこなった職員も理念を理解しており理念の共有も実践できている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設行事(敬老会・誕生会・餅つき・消防訓練等)時、民生委員や地域住民の方に参加頂く等、協力頂いている。また、町内清掃活動、地域の行事等には、職員と一緒に入居者にも参加して頂く等、地域との共存を心がけている。花の手入れや、季節の野菜の植え付け等、近所の住民の方から指導して頂く事も度々ある。餅つきに至っては、子供会の参加が定例化し、町内の年間行事になっている。地域内のグループホームとの連携をとる為、互いに訪問する機会を設けた。町内にお住いの方に、レクリエーション活動の支援をお願いしている。(ハーモニカ演奏会等)	毎年おこなう餅つき大会は自治会の会報で案内され地域住民の参加も多いようである。施設が行う行事が地域の欠かせないイベントに成長することは施設と地域のつながりの完成形とも言える。施設の敷地の花壇・畑を地域の方が自らお手伝いし、利用者・職員と交流を行っていることも地域とのつながりが自然体でおこなわれていることが伺える。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に開かれた施設を目指して、地域民生委員、町内会長等からの、地域の高齢者に対する相談を受けたり、必要であれば、適切な相談窓口の紹介を行う等している。また、運営推進会議時に、相談の時間を設け、意見交換を行っている。意見交換は、出席者と施設側間のみではなく、出席者間の情報交換の場としても活用されている状況がある。福岡市で行われる、市民対象の研修などの情報を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・地域住民代表、消防関係者、交番、家族の方々に参加頂き、利用者の状況、サービス改善への取り組み、入退居者の報告、入居待機者報告、監査改善結果報告、職員の教育研修報告、インシデント・アクシデントやヒヤリハットの報告を行い、意見を聞きながら、サービス向上に活かしている。運営推進会議欠席のご家族には、議事録を郵送し、情報を共有している。	2ヶ月に1度運営推進会議が行われている。欠席したメンバーに議事録を郵送していることは情報共有の実践例である。運営推進会議のメンバーからの要望で介護職以外も参加可能な認知症や介護に関する研修会の案内を行い形式的にならないよう工夫している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	福岡市介護サービス課、地域包括支援センターと密接に報告、連絡、相談を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。公的支援を受けている入居者様に関しては、市の担当者と密に連絡を取るよう心がけている。民生委員の定例会に参加し、地域の方と交流を通じて地域で必要とされる事業所を目指し、取り組んでいる。	運営推進会議のメンバーでもある民生委員からの要望を受け民生委員の定例会に参加し、地域のニーズの聞き取りや他事業所との連携などに生かしている。住宅街であり駐車場が少なく、行政の担当者に駐車場をお貸しするなど協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設の方針として、身体拘束は行わないとしている。ただし、その必要性が生じたとき、規程に基づき実施するとしているが、これまで身体拘束を行った事はない。「福岡県身体拘束ゼロ宣言」の趣旨に賛同し、宣言書提出の上、登録を行っている。職員も、外部研修に出向き理解に努めている。	身体拘束はおこなったことがないとのことである。外出願望が強い利用者についてはよく観察し外出を止めず一緒に歩いて気持ちを落ち着けている。身体拘束廃止に関するマニュアルも整備され、定期的に委員会活動も行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修において「身体拘束ゼロ」を含めた虐待防止研修を行い、虐待が見過ごされないよう防止に努めている。権利擁護の研修に参加し、高齢者虐待防止法について学習している。専用のテキストを作成し、内部研修に力を入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加することで、権利擁護に関する認識を深めるように心がけている。以前成年後見制度を利用していた入居者がいたことで、理解が出来ていたが、新たな職員も増えたこともあり、研修内容をもとに、施設内での勉強会等を通して、職員が共通した認識を持てるようにしている。	成年後見制度の利用者が過去いたことがあるが、現在対象者はいない。外部研修があれば参加し、いつでも対応できるよう準備している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新たな契約を結ぶ際には、入居者や家族等の不安がないよう、十分な時間を設けて説明を行っている。特に、新入居に対しては、希望者には体験利用も行ったうえで納得頂き、契約するよう努めている。改定の際は、運営推進会議で説明、家族への文書での説明など、ご理解頂いた上で実施している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各階入口横に「ご意見箱」を設置し、意見、不満、苦情を投函できる仕組みを作っている。家族の面会時には、直接気付いたことがあれば意見を頂くよう、常に声かけを行ったり、運営推進会議にご出席のご家族に、ご意見・ご要望を伺い運営に反映させている。レクレーションに関しては、利用者の意見を反映させるように心がけている。	意見箱には意見・要望はほとんど入らないため、面会に訪れた際声をかけご意見を聞くようにしている。毎月『菜の花便り』を発行し、面会が少ない家族ともコミュニケーションを図るよう取り組んでいる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見、提案は、朝礼時や直接口頭で受けたり、申し送りノートで共有することで運営に反映できるよう努めている。個人面談に加えて、アンケートを用いた自己評価を行い、職員の一人ひとりや、管理者がサービスの振り返りを行うことで、捉え方の違いを把握し、施設運営や個人の研修計画に反映させている。今年度は、業務マニュアルの1日の業務内容に関する詳細な内容の修正、及び1F・2Fの業務の統一を目標とし、業務改善委員での話し合いを重ねている。	職員2名に聞き取りをおこなったが、働きやすい職場という意見が聞けた。利用者とのかわりについても、意見が述べやすく、また取り組んでくれるケースも多いとのことである。	管理者と職員の関係が現在良好のようである。今後も公私共に今の関係を築き、職員の成長を促すために定期的な個別面談や職員アンケートを企画するなど、職場の風通しをよくする仕組みをご検討ください。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスの要件に沿って、研修会参加、資格取得を奨励し、やりがいなど向上心を持って働けるよう努めている。有資格者には、資格手当を付け、自主的にスキルアップ出来る体制を整えている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している。	職員の募集、採用にあたっては、性別や年齢などを理由に採用対象から排除せず、採用を行っている。また、スキルと適性にあわせて配置を検討し、各自が成長しながら仕事ができ、サービスの向上につながるよう配慮している。定年は65歳だが、状況的に可能であれば、延長して生き生きと働いてもらっている。派遣社員の正社員への登用を目指し、少しではあるが実現している。	職員が働きやすい施設であると友人に声をかけ採用につながったケースがある。定期的にユニット間の職員の移動をおこなうなど働きやすい職場づくりに積極的である。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	虐待防止委員会を設置し、研修会に参加している。ポスターを掲示するなど、昨今の人権教育の必要性を職員に教育、啓発活動に取り組んでいる。校区内の人権尊重講演会にも参加している。委員会指導のもと、内部研修に力を入れている。	定期的に虐待防止委員会を開催しており、利用者を知らないうちに『傷つける言葉のシート』を外部研修で学習し、即内部研修でフィードバック研修を行っている。昼食の場面でも利用者に丁寧に言葉かけをおこなっていた。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の配置にあたっては、スキルと適性にあわせて配置を検討し、各自が成長しながら仕事ができ、サービスの向上につながるよう配慮している。また、資格の取得、外部研修はスタッフ個人の学びたい事等を尊重し、可能な限り希望に添えるよう設定している。委員会を設置し、定期的に勉強会や検討会など、協議する機会を設けていたが、毎日の業務を重視する為、十分に機能していない感があるので、定期的に開催できるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と意見交換を行い、互いの行事に参加できるように、体制を整備している。職員については、研修会の際には同業者と話す機会があるので、積極的に意見交換をするよう指導している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始(入居)までに、何度も面談を行い、ご本人の不安、疑問解消に時間を費やし、納得して頂くよう努力している。可能であれば、施設見学時、本人にも一緒に来ていただき、時間をとって入居者や職員と触れ合ってもらくことで、雰囲気を実際に体感して頂くようにお勧めしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始(入居)までに、何度も面談を行い、ご家族の不安の解消に努め、出来る限りご要望等にお答えできるよう努力している。また、随時電話での対応も行っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、ご本人・ご家族の状況を把握する為に、「問合せ・見学対応記録簿」を作成している。その情報を整理し、今何が必要なのかを見極め、他のサービス利用も含めたアドバイスを行うように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者にとっては、生活の場である為、職員はすべてを介護するのではなく、できる事はして頂くという考えのもとで支援している。料理・菜園の手入れ・洗濯物をたたむ等、それぞれにできる事のお手伝いをお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設を身近に感じて頂くため、「菜の花だより」を毎月ご自宅にお送りしている。その中に、月の行事予定を明示し、ご家族の参加を促し、一人一人の様子がわかるような写真も同封している。来設の少ないご家族には、お電話にて、状況報告を行い、必要時はご家族の意見も参考に対応を行っている。また、疎外感を軽減するため、ご家族との外出や外食をお願いしている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族や友人等の面会時、居室にテーブルと椅子を準備し、御本人と面会者がゆっくりと過ごせるよう配慮する等、入居前の人間関係を大切にし、入居後も共有する時間が持て、関係が継続できるような援助を心がけている。御家族と一緒にの外出、可能であれば自宅への外泊等も勧めている。また、施設前の自販機のコーナーで入居者に過ごして頂くことで買い物気分を味わって頂くこともあり、通りがかりの人とおしゃべりの場ともなっている。	利用者の誕生日に好きなことをしに出かける日を開始している。車の模型が好きな利用者と専門店にでかけ好みのものを購入、その後洋服を選び購入したとのこと。外出の際も過去の生活暦を踏まえ、遠回りしても利用者の過去の記憶を感じ取れるよう配慮している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格を見極め、できるだけスムーズに関係が構築できるよう心掛けている。常に見守りを行いながら、必要時は職員が仲を取り持ち、トラブルを招かないよう留意している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者の状況としては、医療依存度が高くなり、病院から他施設に移動される例が多いが、入院中、面談に施設職員が同席する、家族の相談にのりアドバイスを行う等、家族の支援ができる体制をとっている。必要時は、次の支援先に情報提供を行っている。本人の退去後も、家族から電話があったり、餅つき等の行事に参加されている等、何らかの関係性を継続している例もみられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り、ご本人やご家族の意向に沿った生活支援を心がけている。ただ、自分の思いを表現できない入居者に関しては、家族に確認したり、カンファレンスを行う中で、必要と思われることを話し合い、支援に繋げていけるよう努めている。	入居者の思いや意向については、各フロアスタッフ間で話し合い把握に努めている。自分の思いや意向が表現できない入居者は、家族等が来園された時や電話等で確認している。確認したことをカンファレンスで取り上げ記録し、入居者や家族の思いに応えている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人にとって大切なことや、生活の思い出等を、入居者やご家族との会話の中から拾い出すことで、今までの生活状況を把握している。状況によっては、御本人にとって思い入れのある家具の持ち込み等も提案している		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態が必ずしも安定しているとは限らない入居者もみられる為、その日の状況を把握したうえで、楽しく安定した生活ができるよう支援している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成にあたっては、本人の状況、希望と家族の意向、職員からの提案等を受けて、それぞれの意見を反映したものになるよう心がけている。新たなサービスの導入や、入居者の状態変化時は、介護計画を状況にそった内容になるよう、その都度見直しを行っている。	計画担当者・担当職員・管理者・看護師等で協議し、個々の短期・長期目標を設定し、月毎に職員評価を行い介護計画に基づく支援をしている。入居者によっては、医師の指導の下にリハビリやマッサージ等を週/3回程利用し支援にあたっている。職員間で協議し入居者の状態変化が見える場合には計画の見直しも行っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、心身の状態の記録はもちろん、情報の共有が円滑に行われるよう工夫し、ケアプランの見直し、ケアの実践に活かせるようにしている。個々の記録として介護記録に加え、入居後の経過がわかるように施設介護支援経過表の記載を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	高齢化に伴い、介護職員が状況に即した適切な対応ができるよう指導し、臨機応変に対応できる体制を取っている。医療的な問題に係らず、問題出現時は情報を共有し、その時に必要な対応が出来るように心がけている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族や地域住民、民生委員、子供会に参加していただける行事は、積極的に呼びかけし、消防署や地域の消防団員には、消火訓練時に指導いただくなど地域資源の活用を行っている。地域の交番にも、徘徊についてのアドバイスを頂く等、必要時相談にのって頂いている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しては、基本的に本人及び家族などの希望や意向を反映し決定している。2か所の医療機関と連携しているが、以前はそのうちの1か所は往診の形態であった。昨年連携医療機関を変更し、2か所とも訪問診療となったことで、以前に増して、医療機関との連携がスムーズに取れるようになった。また、口腔内の清潔を保つことが感染予防の観点からも重要と考え、全ての入居者に定期的な訪問歯科診療を受けて頂いている。	かかりつけ医は、入居者や家族の意向を汲み上げている。 本年度からは、連携医療機関の変更により訪問診療を行なうことで、電話連絡での対応がスムーズになる。24時間体制での医師への連絡や薬等の手配も可能になった。専門医への受診に際しては家族対応でお願いをしているが、家族の状況によっては事業所対応にて通院受診などの支援をしている。指定歯科医は週/1回の訪問診療を行っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	業務を行う中で、職員全員が、情報の共有が出来るように心がけている。医療面での対応が必要な場合は、施設の看護師から、かかりつけ医(病院の看護師)に相談し、指示を受け対応している。医師の指示で、訪問看護の導入が必要な場合は、訪問看護師に対しても、必要な情報を提供し、入居者が必要は援助を受けられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急搬送時や、状態悪化の際は、かかりつけ医に相談し、安心して治療を受けられる体制をとっている。入院中も病院に面会に伺い、ご本人の状態を確認している。主治医や看護師からの情報も、面談により状況を把握するよう努めている。退院時には必ず面談をお願いし、入居者の退院後の生活について必要な指示を頂いている。入院に際しては、施設看護師からの情報として、看護添書を持参している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	研修等にも参加しながら、他施設での看取りの現状等を知り、また情報交換することで、看取りについて模索しているのが現状であり、その意味では、「看取りについてのマニュアル」作成まではいまだ至っていない。医療機関の1本化は出来ていないが、往診体制をとっていた病院から訪問診療が可能な病院に連携を変更したことで緊急時の対応はスムーズに出来るようになってきている。また訪問看護ステーションの利用頻度も、以前より多くなってきている。入居者様の状況によっては、診察時に家族にも参加して頂き、家族・病院・施設職員で、今後の方針を話し合う機会を設けている。最終目標である「施設での看取り」についてはまだ出来ていないが、「何かあったらすぐ病院へ」から「医療依存度が高くなっても、できるだけ長い時間施設で生活して頂く」と職員の認識も変化してきているように見受けられる。「施設での看取り」を実践するまでにはまだ時間を要すると思われるが、出来る所から確実に取り組んでいきたい。	重度化の外部研修会に参加し内部研修で職員へ周知を図り、重度化に向けた対応が出来るような工夫を考えている。将来を見据えた重度化マニュアルを作成し職員への周知に努めるように検討している。 現状では対象の入居者はいないが前向きに考慮検討している。日を重ねるごとに入居者の状態変化に注意を配りながら職員間で共有し支援に努めていくことに心掛けている。また、今年より訪問診療ができる体制になったことで医療機関との連携が図れるようになった。いずれは「施設での見取り」を目標にと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師を採用し、柔軟な対応ができるよう努めている。職員の指導にあたっては、各入居者の持っているリスクに対する対処法を情報として伝え、急変や事故発生時にスムーズに対応できるように努めている。実際に急変や事故が起こった場合は、報告書等を参考に、事例をあげて検討することで、知識を蓄え、実践力を身につける一助としている。感染症委員会、感染症対策マニュアルの内容の把握や、手洗いの研修会等を、保健所から講師を招き行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間に戸外に出る方法は、日頃の活動で身につけていると予測するが、夜間の避難方法については訓練を実施している。自治会や、地域の代表者、近隣の住民の方々には、日頃より入居者の特性を理解して頂き、非常時に強力頂けるよう働きかけている。また避難訓練にも参加頂いている。備蓄については35品目、アルファ米は120食と、地域の方々の避難場所としての役割も考え、大目に準備している。	災害対策として職員緊急連絡網などを活用しながら年2回の避難訓練を実施している。その際には地域の方々や自治会の代表者等に協力をお願いしている。地震対策の観点から居室内の家具等が入居者に倒れ掛からないように置き場所を替えている。出入り口などには物を置かないように職員へ周知している。備蓄品についても完備して備え地域の避難場所として準備されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	権利擁護に関する勉強会を行い、個人を尊重した言葉かけや対応を行うよう努めている。また個人情報の取り扱いにも留意している。	2ヶ月毎に内部研修を行い言葉使いや言葉掛けについて、権利擁護に関する職員チェック表を用いて協議し工夫を行っている。個々の入居者に合わせた取り組みを職員間で共有し、入居者支援を行っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望については、本人と職員で相談の場を設け決定するようにしている。できるだけ本人の希望に沿った生活ができるよう努めているが、希望に沿えない場合は、代案を提示するなど、少しでも希望に近づけるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の思いや希望については、本人と職員で相談の場を設け決定するようにしている。できるだけ本人の希望に沿った生活ができるよう努めているが、希望に沿えない場合は、代案を提示するなど、少しでも希望に近づけるよう努力している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度訪問理美容を行っている。身だしなみやおしゃれのタイミングに関しては、本人が希望する時にできるよう支援している。化粧品の購入希望は職員が相談にのっている。レクレーションでは、メイクといつもとは違う洋服を着て参加して頂くように、お手伝いしている。気分も晴れやかになり、好評になっている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日のメニューに沿った献立以外にも、レクレーションの企画を通して、おやつ作り等を、職員と一緒に、出来る範囲ではあるが、お手伝いして頂いている。 また、ドライブ等の外出を利用し、ファミレスで、食事やお茶の時間を楽しむ等、変化を取り入れるよう工夫している。魚釣りで釣った魚を、南蛮漬けにしたり、育てた南瓜でかき揚げを作ったりと、釣りや園芸に参加出来ない方にも、会話を楽しんでお食事頂けるように工夫している。誕生会等の行事時は、職員手作りの食事(ちらし寿司やてんぷら等)を提供するよう心掛けています。	毎日のメニューは業者が立てた献立表に基づいて業者より食材を発注し配送していただき、当日の担当職員が調理を行っている。毎日提供する食事の評価を職員で行い記録し残している。たまに職員が海で釣り上げてきた魚を天ぷらなどに調理し一品加え提供している。入居者から喜んでいただいている。ダイニングとリビングホールは調理場をは挟んで両サイドあるため食事後リビングホールでゆったりと過ごされている。以前は配膳引き膳のお手伝いをされる方はいたが、入居者の状態等も考慮してお手伝いが出来る方のみお願いをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の栄養バランス、カロリー管理が明確化されていることから、食材は外注している。しかし、必要時、献立を追加し施設で食材購入し調理する等も行っている。また、脱水症を防ぐため、水分確保のための習慣づけも必要と考え、午前、午後にお茶の時間を設けている。水分補給に関しては、飲み物の種類を多くするなど、水分量を確保する為に工夫している。飲水量は1000cc以上/日を目標にしている。食事摂取量が減少した場合は、食事形態の変更や、家族と相談し本人が好む食品の購入等も試みている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。毎週、歯科の訪問診療を受け、指導・指示のもと、磨き方の指導が出来るよう支援している。歯科に関する問題が生じた場合は、歯科医師や歯科衛生士と連携し対応している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄の間隔、パターンを把握し、トイレ誘導を行うことで、排泄の失敗を少なくするよう心がけている。また、入居者個々の持てる能力を見極め、職員が統一した働きかけを行うことで排泄の自立を促す取り組みを行なっている。	個々入居者の排泄時間や排泄パターンを排泄チェック表に記載し全職員が把握に努め支援にあたっている。排泄対策として出来る限りポータブルトイレやおむつの使用を減らせるような工夫を行い、入居者一人ひとりがトイレにて自立排泄ができるような工夫を全職員で取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、便秘予防と対応のため飲食物の工夫(ヨーグルト・牛乳等)を行わない、水分量を調整したり、腹部マッサージや温湿布を行う等の対応を行っている。医師の指示のもと、下剤での調整も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回をめぐりに入浴をして頂いている。入浴日は決まっているが、曜日、時間にとらわれる事無く、状況に合わせた対応を行っている。	1F・2Fとも毎週3回午前午後と入浴を提供している。入浴を拒む方や状態等によっては時間や曜日を替えた支援を行っている。担当職員の声掛けでも無理な方は無理維持をせず他の職員と共に声掛けなどで入浴介助を支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	決まった消灯時間を設けることなく、他の利用者に迷惑をかけない程度で夜間のテレビを楽しんだり、日中も本人の希望により、横になって、昼寝をしたりできるようにしている。また、不眠な状況であれば、安心して眠れるよう工夫をしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、1人ひとりの利用者が服薬している薬が、何を改善するための薬であるか情報を共有したり、用法、用量について申し送りを通じて確認を行うと共に、必要に応じて主治医へ報告、相談できるようにしている。与薬時の手順を看護師が指導している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜の収穫や家事の手伝い等、入居者のできる事を継続して行って頂くことで役割・楽しみ・生きがいに繋がっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に沿って、戸外への外出支援を行なっている。町内の夏祭り、防災訓練、清掃活動等、自主的に参加し、外出を促している。また、事業所の中にばかりいる事を希望する入居者には、都度、声かけし、短時間でも戸外での日光浴や気分転換を図るよう働きかけている。テラスに椅子とテーブルを置き、外出に繋げる工夫をしている。施設の買い物にも同行して頂いている。誕生日には、職員同伴のもと、本人の希望する場所への外出を計画し、予算を決めての買物をする等、個々の要望にそった内容で楽しんでいただけるよう支援している。	地域の行事や地域の清掃活動、防災訓練などを利用し少しでも外出の機会に応えられるように工夫している。入居者の要望に応じて個人対応で入居者の希望に応じている。神社参拝や海がお好きな方などは受診後を利用し車窓から眺められるよう帰り時に足を延ばして応えている。家族面会時などで外出の申し出がある場合でも気軽に応えている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常生活に必要な物品の買い物支援では、個人の意思で使えるよう支援している。本人の申し出により、家族からお金をもらった際には、紛失されることもある為、基本的にはお預かりしているが、納得いくまで一時的に持っておくなどの支援も行なっている。散歩がてら、施設前の自販機でジュースを買うなどの支援も行っている。誕生日の外出の際は、お金を所持していただき、使うことの支援をしている。			
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話支援はもちろん、年賀状を書く支援等も行なっている。また、本人が精神的に不安定な状況の際などは、家族の声を聞くことで安心できるよう支援を行なっている。ご家族には、行事の写真を郵送することで、特に遠方で頻繁な面会が困難なご家族からは、様子がわかり安心出来ると喜んで頂いている。また、職員が同行して、ご家族の所へお連れしたり、電話をかけて近況を報告する等している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、季節の花々や、利用者による共同制作の作品や、行事での写真を掲示し、生活感や季節感をとり入れている。	ダイニングは、採光が入り明るく、その明かりもリビングホールまで届く、ソファやテーブル、テレビなどが配置され居心地が良い環境となっている。BGMも流れ過ぎしやすい場所となっている。出入り口の壁やホールの壁には行事写真や口腔体操に関する用紙等が掲載されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの中で、独りになることはほとんどない。だが、思い思いに自分の気に入った居場所を確保できるよう工夫したり、家族と一緒に過ごしたり、仲の良い入居者同士で過ごせるよう工夫をしている。バルコニーにテーブルと椅子を置き、外気にあたりお茶を飲むスペースを設置している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の居室は、本人の状態をみながら、家族と相談し、可能な範囲で危険がない馴染みの家具を持ち込んでいただくことで、本人が居心地良く過ごせるような働きかけを行なっている。	居室入口には担当職員の写真が掲示され家族にも分かるようになっている。居室内は入居者の馴染みの物や家族写真があり安心感がある。また、地震対策として家具類等が入居者へ倒れ掛からないような配置がされていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりの理解力や記憶障害の程度も様々である為、居室入口に写真を掲示し、混乱や不穏が少なくなるように工夫している。担当職員が入居者と共に、入居者の意思を尊重した、居室内の環境整備を行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090800048		
法人名	有限会社 ごんどう		
事業所名	グループホーム菜の花 2F		
所在地	福岡市東区和白東4丁目6番26号		
自己評価作成日	平成30年8月16日	評価結果確定日	平成30年11月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JiyosyoCd=4090800048-00&PrefCd=40&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	福岡市博多区博多駅東2-6-1九勸筑紫通ビル9階		
訪問調査日	平成30年10月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事への参加、子供会や近隣の住民も参加しての年末の「餅つき」に加えて、前年から力を入れている「菜の花夏祭り」にも、子供やご家族を招いて開催しています。地域の一員として、地域住民の方との触れ合いを大切にしながら運営を行っています。 ・職員の資質の向上を目指し、外部の研修会や内部研修の、年間計画を立て実施しています。 ・入居者様の人権を守る取り組みを、今後も継続していきます。 ・今年度は、委員会活動の活性化を目標に挙げ、職員全体で運営をサポートしていきます。 ・運営推進会議は、町内会長・民生委員の方をはじめ、御家族や必要時は消防分団、交番からの参加も頂き、円滑に運営出来ています。近隣のグループホームとの交流も進んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、「住み慣れた地域で皆とともに自分らしく、のんびりゆったり楽しく暮らします」の理念を朝礼に参加している職員全員で唱和することで、その意義を再確認し、日々の実践に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設行事(敬老会・誕生会・餅つき・消防訓練等)時、民生委員や地域住民の方に参加頂く等、協力頂いている。また、町内清掃活動、地域の行事等には、職員と一緒に入居者にも参加して頂く等、地域との共存を心がけている。花の手入れや、季節の野菜の植え付け等、近所の住民の方から指導して頂く事も度々ある。餅つきに至っては、子供の参加が定例化し、町内の年間行事になっている。地域内のグループホームとの連携をとる為、互いに訪問する機会を設けた。町内にお住いの方に、レクリエーション活動の支援を、お願いしている。(ハーモニカ演奏会等)		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に開かれた施設を目指して、地域民生委員、町内会長等からの、地域の高齢者に対する相談を受けたり、必要であれば、適切な相談窓口の紹介を行う等している。また、運営推進会議時に、相談の時間を設け、意見交換を行っている。意見交換は、出席者と施設側間のみではなく、出席者間の情報交換の場としても活用されている状況がある。福岡市で行われる、市民対象の研修などの情報を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・地域住民代表、消防関係者、交番、家族の方々に参加頂き、利用者の状況、サービス改善への取り組み、入退居者の報告、入居待機者報告、監査改善結果報告、職員の教育研修報告、インシデント・アクシデントやヒヤリハットの報告を行い、意見を聞きながら、サービス向上に活かしている。運営推進会議欠席のご家族には、議事録を郵送し、情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	福岡市介護サービス課、地域包括支援センターと密接に報告、連絡、相談を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。公的支援を受けている入居者様に関しては、市の担当者と密に連絡を取るよう心がけている。民生委員の定例会に参加し、地域の方と交流を通じて地域で必要とされる事業所を目指し、取り組んでる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設の方針として、身体拘束は行わないとしている。ただし、その必要性が生じたとき、規程に基づき実施するとしているが、これまで身体拘束を行った事はない。「福岡県身体拘束ゼロ宣言」の趣旨に賛同し、宣言書提出の上、登録を行っている。職員も、外部研修に出向き理解に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修において「身体拘束ゼロ」を含めた虐待防止研修を行い、虐待が見過ごされないよう防止に努めている。権利擁護の研修に参加し、高齢者虐待防止法について学習している。専用のテキストを作成し、内部研修に力を入れている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加することで、権利擁護に関する認識を深めるよう心がけている。以前成年後見制度を利用していた入居者がいたことで、理解が出来ていたが、新たな職員も増えたこともあり、研修内容をもとに、施設内での勉強会等を通して、職員が共通した認識を持てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新たな契約を結ぶ際には、入居者や家族等の不安がないよう、十分な時間を設けて説明を行っている。特に、新入居に対しては、希望者には体験利用も行ったうえで納得頂き、契約するよう努めている。改定の際は、運営推進会議で説明、家族への文書での説明など、ご理解頂いた上で実施している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各階入口横に「ご意見箱」を設置し、意見、不満、苦情を投函できる仕組みを作っている。家族の面会時には、直接気付いたことがあれば意見を頂くよう、常に声かけを行ったり、運営推進会議にご出席のご家族に、ご意見・ご要望を伺い運営に反映させている。レクリエーションに関しては、利用者の意見を反映させるように心がけている。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見、提案は、朝礼時や直接口頭で受けたり、申し送りノートで共有することで運営に反映できるよう努めている。個人面談に加えて、アンケートを用いた自己評価を行い、職員の一人ひとりや、管理者がサービスの振り返りを行うことで、捉え方の違いを把握し、施設運営や個人の研修計画に反映させている。今年度は、業務マニュアルの1日の業務内容に関する詳細な内容の修正、及び1F・2Fの業務の統一を目標とし、業務改善委員での話し合いを重ねている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスの要件に沿って、研修会参加、資格取得を奨励し、やりがいなど向上心を持って働けるよう努めている。有資格者には、資格手当を付け、自主的にスキルアップ出来る体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している。	職員の募集、採用にあたっては、性別や年齢などを理由に採用対象から排除せず、採用を行っている。また、スキルと適性にあわせて配置を検討し、各自が成長しながら仕事ができ、サービスの向上につながるよう配慮している。定年は65歳だが、状況的に可能であれば、延長して生き生きと働いてもらっている。派遣社員の正社員への登用を目指し、少しではあるが実現している。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	虐待防止委員会を設置し、研修会に参加している。ポスターを掲示するなど、昨今の人権教育の必要性を職員に教育、啓発活動に取り組んでいる。校区内の人権尊重講演会にも参加している。委員会指導のもと、内部研修に力を入れている。		
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の配置にあたっては、スキルと適性にあわせて配置を検討し、各自が成長しながら仕事ができ、サービスの向上につながるよう配慮している。また、資格の取得、外部研修はスタッフ個人の学びたい事等を尊重し、可能な限り希望に添えるよう設定している。委員会を設置し、定期的に勉強会や検討会など、協議する機会を設けていたが、毎日の業務を重視する為、十分に機能していない感があるので、定期的開催できるよう努力している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と意見交換を行い、互いの行事に参加できるように、体制を整備している。職員については、研修会の際には同業者と話す機会があるので、積極的に意見交換をするよう指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始(入居)までに、何度も面談を行い、ご本人の不安、疑問解消に時間を費やし、納得して頂くよう努力している。可能であれば、施設見学時、本人にも一緒に来ていただき、時間をとって入居者や職員と触れ合って頂くことで、雰囲気を実際に体感して頂くようお勧めしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始(入居)までに、何度も面談を行い、ご家族の不安の解消に努め、出来る限りご要望等にお答えできるよう努力している。また、随時電話での対応も行っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、ご本人・ご家族の状況を把握する為に、「問合せ・見学対応記録簿」を作成している。その情報を整理し、今何が必要なのかを見極め、他のサービス利用も含めたアドバイスを行うように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者にとっては、生活の場である為、職員はすべてを介護するのではなく、できる事はして頂くという考えのもとで支援している。料理・菜園の手入れ・洗濯物をたたむ等、それぞれにできる事のお手伝いをお願いしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設を身近に感じて頂くため、「菜の花だより」を毎月ご自宅にお送りしている。その中に、月の行事予定を明示し、ご家族の参加を促し、一人一人の様子がわかるような写真も同封している。来設の少ないご家族には、お電話にて、状況報告を行い、必要時はご家族の意見も参考に対応を行っている。また、疎外感を軽減するため、ご家族との外出や外食をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族や友人等の面会時、居室にテーブルと椅子を準備し、御本人と面会者がゆっくりと過ごせるよう配慮する等、入居前の人間関係を大切に、入居後も共有する時間が持て、関係が継続できるような援助を心がけている。御家族と一緒にの外出、可能であれば自宅への外泊等も勧めている。また、施設前の自販機のコーナーで入居者に過ごして頂くことで買い物気分を味わって頂くこともあり、通りがかりの人のおしゃべりの場ともなっている。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格を見極め、できるだけスムーズに関係が構築できるよう心掛けている。常に見守りを行いながら、必要時は職員が仲を取り持ち、トラブルを招かないよう留意している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者の状況としては、医療依存度が高くなり、病院から他施設に移動される例が多いが、入院中、面談に施設職員が同席する、家族の相談にのりアドバイスを行う等、家族の支援ができる体制をとっている。必要時は、次の支援先に情報提供を行っている。本人の退去後も、家族から電話があったり、餅つき等の行事に参加されている等、何らかの関係性を継続している例もみられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り、ご本人やご家族の意向に沿った生活支援を心がけている。ただ、自分の思いを表現できない入居者に関しては、家族に確認したり、カンファレンスを行う中で、必要と思われることを話し合い、支援に繋がっていきけるよう努めている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人にとって大切なことや、生活の思い出等を、入居者やご家族との会話の中から拾い出すことで、今までの生活状況を把握している。状況によっては、御本人にとって思い入れのある家具の持ち込み等も提案している		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態が必ずしも安定しているとは限らない入居者もみられる為、その日の状況を把握したうえで、楽しく安定した生活ができるよう支援している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成にあたっては、本人の状況、希望と家族の意向、職員からの提案等を受けて、それぞれの意見を反映したものになるよう心がけている。新たなサービスの導入や、入居者の状態変化時は、介護計画を状況にそった内容になるよう、その都度見直しを行っている。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、心身の状態の記録はもちろん、情報の共有が円滑に行われるよう工夫し、ケアプランの見直し、ケアの実践に活かせるようにしている。個々の記録として介護記録に加え、入居後の経過がわかるように施設介護支援経過表の記載を行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	高齢化に伴い、介護職員が状況に即した適切な対応ができるよう指導し、臨機応変に対応できる体制を取っている。医療的な問題に係らず、問題出現時は情報を共有し、その時に必要な対応が出来るように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族や地域住民、民生委員、子供会に参加していただける行事は、積極的に呼びかけし、消防署や地域の消防団員には、消火訓練時に指導いただくなど地域資源の活用を行っている。地域の交番にも、徘徊についてのアドバイスを頂く等、必要時相談にのって頂いている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しては、基本的に本人及び家族などの希望や意向を反映し決定している。2か所の医療機関と連携しているが、以前はそのうちの1か所は往診の形態であった。昨年連携医療機関を変更し、2か所とも訪問診療となったことで、以前に増して、医療機関との連携がスムーズに取れるようになった。また、口腔内の清潔を保つことが感染予防の観点からも重要と考え、全ての入居者に定期的な訪問歯科診療を受けて頂いている。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	業務を行う中で、職員全員が、情報の共有が出来るように心がけている。医療面での対応が必要な場合は、施設の看護師から、かかりつけ医(病院の看護師)に相談し、指示を受け対応している。医師の指示で、訪問看護の導入が必要な場合は、訪問看護師に対しても、必要な情報を提供し、入居者が必要は援助を受けられるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急搬送時や、状態悪化の際は、かかりつけ医に相談し、安心して治療を受けられる体制をとっている。入院中も病院に面会に伺い、ご本人の状態を確認している。主治医や看護師からの情報も、面談により状況を把握するよう努めている。退院時には必ず面談をお願いし、入居者の退院後の生活について必要な指示を頂いている。入院に際しては、施設看護師からの情報として、看護添書を持参している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	研修等にも参加しながら、他施設での看取りの現状等を知り、また情報交換することで、看取りについて模索しているのが現状であり、その意味では、「看取りについてのマニュアル」作成まではいまだ至っていない。医療機関の1本化は出来ていないが、往診体制をとっていた病院から訪問診療が可能な病院に連携を変更したことで緊急時の対応はスムーズに出来るようになっている。また訪問看護ステーションの利用頻度も、以前より多くなってきている。入居者様の状況によっては、診察時に家族にも参加して頂き、家族・病院・施設職員で、今後の方針を話し合う機会を設けている。最終目標である「施設での看取り」についてはまだ出来ていないが、「何かあったらすぐ病院へ」から「医療依存度が高くなって、できるだけ長い時間施設で生活して頂く」と職員の認識も変化してきているように見受けられる。「施設での看取り」を実践するまでにはまだ時間を要すると思われるが、出来る所から確実に取り組んでいきたい。		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師を採用し、柔軟な対応ができるよう努めている。職員の指導にあたっては、各入居者の持っているリスクに対する対処法を情報として伝え、急変や事故発生時にスムーズに対応できるように努めている。実際に急変や事故が起こった場合は、報告書等を参考に、事例をあげて検討することで、知識を蓄え、実践力を身につける一助としている。感染症委員会で、感染症対策マニュアルの内容の把握や、手洗いの研修会等を、保健所から講師を招き行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	屋間に戸外に出る方法は、日頃の活動で身につけていると予測するが、夜間の避難方法については訓練を実施している。自治会や、地域の代表者、近隣の住民の方々には、日頃より入居者の特性を理解して頂き、非常時に強力頂けるよう働きかけている。また避難訓練にも参加頂いている。備蓄については35品目、アルファ米は120食と、地域の方々の避難場所としての役割も考え、大目に準備している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	権利擁護に関する勉強会を行い、個人を尊重した言葉かけや対応を行うよう努めている。また個人情報の取り扱いにも留意している。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望については、本人と職員で相談の場を設け決定するようにしている。できるだけ本人の希望に沿った生活ができるよう努めているが、希望に沿えない場合は、代案を提示するなど、少しでも希望に近づけるよう努力している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の思いや希望については、本人と職員で相談の場を設け決定するようにしている。できるだけ本人の希望に沿った生活ができるよう努めているが、希望に沿えない場合は、代案を提示するなど、少しでも希望に近づけるよう努力している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度訪問理美容を行っている。身だしなみやおしゃれのタイミングに関しては、本人が希望する時にできるように支援している。化粧品の購入希望は職員が相談にのっている。レクレーションでは、メイクといつもとは違う洋服を着て参加して頂くように、お手伝いしている。気分も晴れやかに、好評になっている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日のメニューに沿った献立以外にも、レクレーションの企画を通して、おやつ作り等を、職員と一緒に、出来る範囲ではあるが、お手伝いして頂いている。 また、ドライブ等の外出を利用し、ファミレスで、食事やお茶の時間を楽しむ等、変化を取り入れるよう工夫している。魚釣りで釣った魚を、南蛮漬けにしたり、育てた南瓜でかき揚げを作ったりと、釣りや園芸に参加出来ない方にも、会話を楽しんでお食事頂けるように工夫している。誕生会等の行事時は、職員手作りの食事(ちらし寿司やてんぷら等)を提供するよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の栄養バランス、カロリー管理が明確化されていることから、食材は外注している。しかし、必要時、献立を追加施設で食材購入し調理する等も行っている。また、脱水症を防ぐため、水分確保のための習慣づけも必要と考え、午前、午後にお茶の時間を設けている。水分補給に関しては、飲み物の種類を多くするなど、水分量を確保する為に工夫している。飲水量は1000cc以上/日を目標にしている。食事摂取量が減少した場合は、食事形態の変更や、家族と相談し本人が好む食品の購入等も試みている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。毎週、歯科の訪問診療を受け、指導・指示のもと、磨き方の指導が出来るよう支援している。歯科に関する問題が生じた場合は、歯科医師や歯科衛生士と連携し対応している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄の間隔、パターンを把握し、トイレ誘導を行うことで、排泄の失敗を少なくするよう心がけている。また、入居者個々の持てる能力を見極め、職員が統一した働きかけを行うことで排泄の自立を促す取り組みを行なっている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、便秘予防と対応のため飲食物の工夫(ヨーグルト・牛乳等)を行ない、水分量を調整したり、腹部マッサージや温湿布を行う等の対応を行っている。医師の指示のもと、下剤での調整も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回をめぐりに入浴をして頂いている。入浴日は決まっているが、曜日、時間にとらわれない事無く、状況に合わせた対応を行っている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	決まった消灯時間を設けることなく、他の利用者に迷惑をかけない程度で夜間のテレビを楽しんだり、日中も本人の希望により、横になって、昼寝をしたりできるようにしている。また、不眠な状況であれば、安心して眠れるよう工夫をしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、1人ひとりの利用者が服薬している薬が、何を改善するための薬であるか情報を共有したり、用法、用量について申し送りを通じて確認を行うと共に、必要に応じて主治医へ報告、相談できるようにしている。与薬時の手順を看護師が指導している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜の収穫や家事の手伝い等、入居者のできる事を継続して行って頂くことで役割・楽しみ・生きがいに繋がっている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に沿って、戸外への外出支援を行っている。町内の夏祭り、防災訓練、清掃活動等、自主的に参加し、外出を促している。また、事業所の中にばかりいる事を希望する入居者には、都度、声かけし、短時間でも戸外での日光浴や気分転換を図るよう働きかけている。テラスに椅子とテーブルを置き、外出に繋げる工夫をしている。施設の買い物にも同行して頂いている。誕生日には、職員同伴のもと、本人の希望する場所への外出を計画し、予算を決めての買物をする等、個々の要望にそった内容で楽しんでいただけるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常生活に必要な物品の買い物支援では、個人の意思で使えるよう支援している。本人の申し出により、家族からお金をもらった際には、紛失されることもある為、基本的にはお預かりしているが、納得いくまで一時的に持つておくなどの支援も行なっている。散歩がてら、施設前の自販機でジュースを買うなどの支援も行っている。誕生日の外出の際は、お金を所持していただき、使うことの支援をしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話支援はもちろん、年賀状を書く支援等も行なっている。また、本人が精神的に不安定な状況の際などは、家族の声を聞くことで安心できるよう支援を行なっている。ご家族には、行事の写真を郵送することで、特に遠方で頻繁な面会が困難なご家族からは、様子がわかり安心出来ると喜んで頂いている。また、職員が同行して、ご家族の所へお連れしたり、電話をかけて近況を報告する等している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、季節の花々や、利用者による共同制作の作品や、行事での写真を掲示し、生活感や季節感をとり入れている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの中で、独りになることはほとんどない。だが、思い思いに自分の気に入った居場所を確保できるよう工夫したり、家族と一緒に過ごしたり、仲の良い入居者同士で過ごせるよう工夫をしている。バルコニーにテーブルと椅子を置き、外気にあたりお茶を飲むスペースを設置している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の居室は、本人の状態をみながら、家族と相談し、可能な範囲で危険がない馴染みの家具を持ち込んでいただくことで、本人が居心地良く過ごせるような働きかけを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりの理解力や記憶障害の程度も様々である為、居室入口に写真を掲示し、混乱や不穏が少なくなるように工夫している。担当職員が入居者と共に、入居者の意思を尊重した、居室内の環境整備を行っている。		